

研究 主題	<p style="text-align: center;">叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成</p> <p style="text-align: center;">－ 良好な人間関係づくりを土台とした「読むこと」の単元構想を通して －</p>
----------	--

第3学年 国語科学習指導案

指導月日 令和2年7月7日

所属校名 石巻市立中里小学校

氏名 門脇 和歌子

1 単元名『あらすじカード』を作ろう

2 単元の目標

(1) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

〔知識及び技能〕(1)ア

(2) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

3 単元で取り上げる言語活動

物語の出来事と登場人物の気持ちやその変化を考え、「あらすじカード」にまとめる活動。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕(2)イ）

教材「はりねずみと金貨」（東京書籍 新しい国語三上）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (1)ア	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、文章の叙述を基に捉えている。 (C(1)イ)	①進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて文章の叙述を基に捉え、今までの学習を生かしてまとめようとしている。

5 単元観

本単元は小学校学習指導要領国語第3学年及び第4学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(1)「イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」を重点目標に設定している。

本単元では「あらすじカード」をまとめる活動を通して、物語の主な出来事と登場人物の行動や気持ちに着目しながら読むことをねらいとしている。そのため、「いつ、どこで、誰が、どうした」というあらすじとともに、行動や様子を表す叙述から、登場人物の気持ちを捉えさせたい。その際、物語全体を見通して、複数の叙述を基に登場人物の行動や気持ちを捉えさせていく。

6 児童の実態〔第3学年1組32名〕

国語の学習に関するアンケートを行ったところ、国語の学習が好きかという質問に対し、8割以上の児童が肯定的に答えた。一方で、考えを書く際に理由を書いたり、物語の登場人物の気持ちを考えながら読んだりすることについては否定的な答えが多く、苦手意識を持っていることが分かった。

児童は第3学年4月「物語を音読しよう」の単元において、場面の様子を思い浮かべて音読することを学習している。これまでの文学的な文章の学習を通して、内容の大体を捉えたり、登場人物の様子を

考えたりすることができるようになってきているが、登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることが、十分にできていない。

また、少人数では自分の考えを話すことはできるが、全体の前で話すことには抵抗感を持っている児童が多い。進んで自分の考えを伝えようとする意欲を持たせるとともに、多様な考えを認め合う学級の素地を養う必要がある。

7 指導観

単元の始めに、登場人物の気持ちを考えながら読み進め、最後に「あらすじカード」を書くという言語活動を行うことを提示し、学習への見通しを持たせる。

各場面では、「いつ、どこで、誰が、どうした」と「気持ち」を叙述を基に考えさせていく。登場人物の気持ちを考えるということは児童にとって初めての学習となるため、登場人物の行動や会話、様子などから気持ちを考えることができるということを気付かせ、実感を積み重ねていく。物語の始めと終わりを比べ、はりねずみの気持ちの変化を具体的に想像させたい。考えたことは理由も含めてノートに記述させ、全体で共有した後に、改めて自分の考えをまとめさせることで、考えの深まりを目指していきたい。

単元の最後には、これまで読んだことを基に、「あらすじカード」をまとめる。「いつ、どこで、誰が、どうした」という視点に加え、「登場人物の気持ち」に着目したあらすじをまとめさせたい。

また、MLAの実践を取り入れ、児童が安心して考えを述べるような雰囲気を作り、様々な考えを引き出したい。

8 研究主題との関連

本研究は、叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成を目指している。そのために、本単元では「見付ける」「つなぐ」「深める」の3つの段階を設け、指導する。3つの段階のうち、「見付ける」の段階に重点を置いて指導し、叙述から登場人物の気持ちを捉えることができるようにしたい。

また、本単元では、MLAの実践のうち「SEL」「PBIS」「協同学習」を取り入れる。「SEL」は、他教科で学習した「話の聞き方」について想起させる。「PBIS」は学習における望ましい姿を児童とともに考え、意識させる。「協同学習」は座席をコの字型にし、互いの顔を見ながら意見を出し合う。いずれも、相手の話を聞く姿勢を示すことで話しやすい雰囲気を作ることにつなげ、児童の様々な考えを引き出していきたい。

9 単元指導と評価の計画（10時間扱い 本時2／10）

（単元構想図を参照）

10 本時の計画

(1) 本時の目標

言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、本単元で重点を置いた「見付ける」の段階に位置付けている。

始めに、一場面の「いつ、どこで、誰が、どうしたのか」というポイントに着目させて、内容を捉えさせていく。その際、はりねずみの年齢や森の様子などについても確認することで、物語の背景も押さえさせる。

次に、行動や会話から、はりねずみの気持ちを表す言葉を見付けさせる。その際、見付けた言葉からはりねずみのどのような気持ちを想像することができるかということも合わせて考え、見付けた言葉と気持ちを関連付けながら提示する。また、見付けた言葉は表にまとめ、語彙として掲示する。全体で考えを出し合う際は、PBISの取組である「望ましい話の聞き方」を児童に意識させるよう働き掛け、

話しやすい雰囲気を作ることで、児童の考えを引き出すことにつなげていく。

最後に、一場面の出来事を、はりねずみの気持ちも加えて、一、二文にまとめさせる。

終末では、本時の学習の課題とP B I Sについて振り返りを行い、次時へとつなげていく。

(3) 指導過程(別紙)

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準(B)	十分満足できる(A)	努力を要する児童への支援(C)
知識・技能	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、登場人物の気持ちを具体的に想像している。	はりねずみの行動や会話を手掛かりにして、気持ちを表す言葉を見付けさせる。

(5) 準備物

教師：挿絵，表

児童：教科書，ノート，筆記用具

(6) 板書計画

のんびり冬をこす としよう	年をとった たいへんになつて きた	言葉	はりねずみの気持ちが表れている 言葉を見付けよう	気持ち	もう年よりだ こまっている 一人でしたくが できるかな ゆつくりしたい
一場面のはりねずみの行動や気持ちを考えよう					
だれが はりねずみ ・「わし」〇さいくらい					
どうした 金貨を拾った ・きらきら光る					
どこで 森のおくの草むら 森の小道					
いつ 昼 雨上がり					

(3) 指導過程

段階	学習活動	MLAとの関連	・指導上の留意点 ※評価（評価方法）
導入 5分	○主な発問及び指示 ・予想される児童の反応 1 一場面を読む。（個人） 2 本時の課題を知る。 一場面のはりねずみの行動や気持ちを考えよう。		・登場人物の気持ちに注目した「あらすじカード」をまとめるというめあてを想起させる。
展開 ① 7分	3 一場面を読む。（指名） ○誰が出てきて、どんなことをするのか考えながら聞こう。 4 「いつ、どこで、誰が、どうしたのか」書く。		・書き出せない児童には、分かるポイントから書くよう、声掛けを行う。
展開 ② 10分	5 考えたことを全員で共有する。 (1) 「誰が」について確認する。 ・はりねずみだ。 ○どんなはりねずみだと思いますか。それはどの言葉から分かりますか。 ・「わし」と書いてあるから年をとっている。 (2) 「どこで」について確認する。 ・森のおくの草むらかな。森の小道かな。 (3) 「どうしたのか」確認する。 ・金貨を拾った。 ○どのような金貨でしたか。それはどの言葉から分かりますか。 ・小さな金貨。・古ぼけた金貨。 (4) 「いつ」について確認する。 ・絵を見ると昼かな。・雨にあらわれと書いてある。		・根拠となる叙述を明らかにさせるために「どの言葉から考えたか」という問い返しを行う。 ・「冬ごもり」や「ほしきのこ」「古ぼけた」などの語句の意味を確認する。 ・見つからない児童には、はりねずみの行動や会話などから見付けることを助言する。
展開 ③ 20分	6 はりねずみの気持ちが分かる言葉を見付ける。 ○はりねずみの気持ちが分かる言葉を見付けよう。 7 見付けた言葉と気持ちを共有する。 ・「たいへんだ」から、したくがたいへんで困っている気持ち。 ○同じ言葉を選んでも、違う気持ちを書いた人はいますか。 8 一場面のはりねずみの行動と気持ちを一、二文でまとめる。 ○はりねずみの気持ちも入れてまとめましょう。	P B I S 「うなずいて聞いているね」 「目を見て聞くことができたね」 相手が話しやすいような聞き方ができるよう声掛けをし、できている児童を称賛する。様々な考えを出し合うことで、自分の考えを明確にしていくよう働き掛ける。	※〔知識・技能〕 各場面の登場人物の考えたことや思ったことを表す語句を見付けているかの確認（ノート） ・同じ言葉を選んでも様々な気持ちが考えられることを理解させる。
終末 3分	9 振り返りを行う。 ○めあてを達成することができたか。 ○話しやすかったか。	P B I S 話の聞き方の振り返り	・記号(◎, ○, △)でノートに振り返りを書かせる。

研究 主題	<p style="text-align: center;">叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成</p> <p style="text-align: center;">－良好な人間関係づくりを土台とした「読むこと」の単元構想を通して－</p>
----------	--

第3学年 国語科学習指導案

指導月日 令和2年9月4日
 所属校名 石巻市立中里小学校
 氏名 門脇 和歌子

1 単元名「人物につたえたいことをまとめよう」

2 単元の目標

(1) 登場人物の様子や行動，気持ちを表す語句を増し，文章の中で使うことができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

(2) 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕C(1)エ

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力，人間性等」

3 単元で取り上げる言語活動

中心人物の行動や気持ちなどについて考えたことを基に，中心人物に宛てた手紙を書く活動。

（関連：〔思考力，判断力，表現力等〕C(1)イ）

教材「サーカスのライオン」（東京書籍 新しい国語三上）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①登場人物の様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，文章の中で使っている。(1)オ)	①「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	①粘り強く，中心人物の気持ちの変化を捉え，今までの学習を生かして，伝えたいことをまとめようとしている。

5 単元観

本単元は小学校学習指導要領国語第3学年及び第4学年の内容〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の(1)「エ 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」を重点目標に設定している。

児童はこれまで，登場人物の行動や気持ち等について，叙述を基に捉える学習を行ってきた。本単元では，物語の中心となる人物に注目し，場面の移り変わりとともに変化する気持ちを捉えさせたい。そのために，中心となる人物の行動や様子，気持ちを表す表現等を根拠に，どのように気持ちが変わったかということ具体的に想像させていく。

本単元では，中心人物であるじんざに対する児童の気持ちや感想をまとめるために，中心人物に宛てた手紙を書くという言語活動を位置付けた。手紙には，中心人物に伝えたいことや心に残った叙述を書く。この言語活動を単元の始めに提示し，見通しを持ちながら学習を進めさせる。

6 児童の実態〔第3学年1組32名〕

児童は，第3学年6月「あらすじカードを作ろう」の単元において，登場人物の行動や気持ち等について，文章の叙述を基に捉え，あらすじをまとめるという学習をしている。文章の言葉に着目し，人物

の気持ちを考えることがスムーズにできるようになってきた。一方、一人では考えの根拠となる叙述を見付けることができない児童もいる。全体的に、自分の考えを話したり、書いたりすることに苦手意識を持っている児童が多い。友達と考えを伝え合う活動を設け、考える際の手掛かりとしたり、自信を持たせたりすることにつなげていきたい。

7 指導観

単元の始めに、中心人物の気持ちを考えながら物語を読み進め、「中心人物に宛てた手紙を書く」という言語活動を提示し、学習への見通しを持たせる。

各場面では、じんごの行動や様子、会話等の叙述を基に気持ちを考えさせていく。その際、じんごの思いをせりふとして表すという活動を行い、じんごの気持ちを具体的に想像させていきたい。さらに、場面ごとのじんごの気持ちを比べたり、関連付けたりするという活動を通して、気持ちの変化を捉えさせていく。

本単元は、最後にじんごが命を落とす場面が描かれており、物語の終わり方に対しては、多様な感想が生まれると思われる。物語全体を通して児童がどのように考え、感じたかということ共有する活動を行い、より深い読み取りへとつなげていきたい。じんごに手紙を書きたいという気持ちを高められるよう、じんごの気持ちやその変化に対する児童の考えを、毎時間積み重ねていく。

また、MLAの実践を取り入れ、児童が安心して考えを述べるができるような雰囲気を作り、様々な考えを引き出したい。

8 研究主題との関連

本研究は、叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成を目指している。そのために、単元に「見付ける」「つなぐ」「深める」の3つの段階を設けて学習を展開していく。本単元では、特に「つなぐ」の段階に重点を置く。出来事や場面を比較したり、つなげたりしながら、登場人物の気持ちの変化について、根拠となる叙述（【考えのもと】）を明らかにして考えさせていきたい。

MLAについては「ピア・タイム」と称した「ピア・サポート」を新しく取り入れる。進んで考えを交流することができる時間を設けることで、考えを持つことの一助となるよう働き掛ける。

9 単元指導と評価の計画（10時間扱い 本時5／10）

（単元構想図を参照）

10 本時の計画

(1) 目標

「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、本単元で重点を置いた「つなぐ」に位置付けている。じんごの気持ちの変化を行動や様子、会話等から想像し、気持ちを最も大きく変化させた出来事を考える活動を行う。

一場面のじんごは、毎日同じことの繰り返しでやる気をなくしていたが、三場面の終わりでは、火の輪を五つくぐる姿を見せようと考えている。その間のじんごの気持ちについては前時で考えているため、本時では一場面から三場面までの出来事のうち、どれがじんごの気持ちを大きく変化させたかということに着目して考えさせていく。物語では様々なじんごの様子が描かれるため、児童の考えも多様になると予想される。考えの根拠となる叙述を明らかにして、児童の考えを導き出していきたい。

また、児童が考えをまとめる時間は個人差が表れると考えられるため、児童同士が自由に自分の考えを伝え合う時間（ピア・タイム）を確保し、考え中、または考え付かない児童に対して他の児童が声を掛けて一緒に考えたり、児童が自分から他の児童に聞きに行ったりできるようにする。その上で、全体

で考えを共有し、共通点や相違点を話し合う。最後に、改めて自分の考えをまとめさせることで、物語に対する児童の考えの深まりを目指していく。

(3) 指導過程（別紙）

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準(B)	十分満足できる(A)	努力を要する児童への支援(C)
思考・判断・表現	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	中心人物の気持ちが変わったことが分かる出来事を叙述を基に考え、理由を明確にし、他の出来事と比べながら違いを指摘している。	教師や友達との対話を通して、どの出来事で気持ちが変わったと考えるのか選ばせる。これまでの学習から、気持ちを表す言葉を想起させる。

(5) 準備物 教師：一、三場面の内容をまとめた紙、表

児童：教科書、ノート、筆記用具

(6) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「後のじんざ」 よろこばせたい がんばろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男の子が見に来るから <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">↓体に力がこもった</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">明日サーカスを見に来るといふこと</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ さびしくなくなったから 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">毎日やってきたこと</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きではないのにもらったから 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">チョコレートをくれたこと</div> <ul style="list-style-type: none"> ↓じんざはうれしかったのだ ・ 心配してくれる男の子と出会ったから 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">男の子との出会い</div> <ul style="list-style-type: none"> ↓ぐぐつとむねのあたりがあつくなつた ・ 心配してくれる男の子と出会ったから 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">どのできごとが、じんざの気持ちを一番変化させたと思えますか。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「始めのじんざ」 つかれるなあ 帰りたい たいくつだ</div>	<p style="text-align: center;">サーカスのライオン 川村 たかし文</p>
--	---	---	--	---	---	---	--

(3) 指導過程

段階	学習活動	MLAとの関連	・指導上の留意点 ※評価（評価方法）
導入 7分	<p>○主な発問及び指示 ・予想される児童の反応</p> <p>1 一場面と三場面の最後のじんごの気持ちを比べ、変化したことを確認する。</p> <p>○一場面から三場面までの間にどんなことがあったのでしょうか。</p> <p>・男の子との出会いがあった。</p> <p>2 自分は、どの出来事が好きか考える。</p> <p>3 本時の課題を知る。</p> <p>どの出来事が、じんごの気持ちを一番変化させたと思いますか。</p>	<p>本時におけるピア・サポートの取組について確認する。</p>	<p>・前時までの掲示物を参照させ、じんごの気持ちの変化を捉えやすくする。</p> <p>・自分とじんごの視点を分けて考えさせるために、「自分」「じんご」と書いた紙を提示する。</p>
展開 ① 15分	<p>4 二、三場面を読む。</p> <p>○じんごの気持ちの変化を考えながら読みましよう。</p> <p>5 選んだ出来事、根拠となる叙述、理由を書く。</p> <p>(1) 一番変化させたと思う出来事を指で示す。</p> <p>○選んだ場面を指で表しましょう。</p> <p>(2) 一番変化させたと思う出来事をノートに書く。</p> <p>(3) なぜその出来事を選んだのか、根拠となる叙述【考えのもと】と理由をノートに書く。</p> <p>・ぐぐっとむねのあたりがあつくなった。</p> <p>・男の子がじんごを心配していることが分かるから。</p>		<p>・始めに選んだ場面を指で表すことで、必ずどこかの出来事を選ばせるようにする。</p> <p>・前時までに学習した、じんごの気持ちが表れていた言葉を想起させる。</p>
展開 ② 5分	<p>6 児童同士で、友達の考えを自由に聞き合う。</p> <p>[ピア・タイム]</p> <p>○自由に考えを聞き合ひましよう。悩んでいるときは友達の考えを聞きに行きましよう。</p> <p>・私は〇〇の出来事を選んだよ。</p> <p>・理由が考えつかなかった。どのように書いたの。</p>	<p>ピア・サポート</p> <p>「進んで声を掛けよう。」</p> <p>児童が、交流を通して自分の考えを持ったり、明確にしたりするために、教師が意図的に働き掛ける。</p>	<p>・じっくりと考えたい場合や、ノートに付け足したい場合は着席して記述してよいことを確認する。</p>
展開 ③ 15分	<p>7 選んだ出来事と理由を全体で共有する。</p> <p>○どの言葉から考えましたか。【考えのもと】はどこですか。</p> <p>・ぐぐっとむねのあたりがあつくなった。</p> <p>○なぜ、その出来事を選びましたか。</p> <p>・男の子と出会ったことが、一番の変化だと思ったから。</p> <p>○同じ出来事を選んでも、理由や【考えのもと】が違う人はいますか。</p> <p>8 改めてノートに自分の考えをまとめる。</p> <p>○自分の考えをもう一度振り返りましよう。付け足ししてもいいですね。</p>		<p>・「なるほど」と思った友達の考えを青ペンでメモさせる。</p> <p>・同じ出来事を選んでも様々な理由が考えられることを確認する。</p> <p>※ [思考・判断・表現] 中心人物の気持ちの変化を叙述を基に考えているかの確認（ノート）</p>
終末 3分	<p>9 振り返りを行う。</p> <p>○めあてを達成することができたか。</p> <p>○ピア・タイムは役に立ったか。</p>	<p>ピア・サポートについての振り返り</p>	<p>・記号（◎，○，△）と記述でノートに振り返りを書かせる。</p>

研究 主題	叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成 ー良好な人間関係づくりを土台とした「読むこと」の単元構想を通してー
----------	---

第3学年 国語科学習指導案

指導月日 令和2年11月16日
 所属校名 石巻市立中里小学校
 氏名 門脇 和歌子

1 単元名「想ぞうしたことをつたえ合おう」

2 単元の目標

- (1) 登場人物の様子や行動，気持ちを表す語句の量を増し，語彙を豊かにすることができる。
 [知識及び技能] (1)オ
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつことができる。
 [思考力，判断力，表現力等] C(1)オ
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にしてい，思いや考えを伝え合おうとする。
 「学びに向かう力，人間性等」

3 単元で取り上げる言語活動

文章を読んで理解したことを基に，中心人物の性格について「人物紹介カード」にまとめる活動。
 (関連：[思考力，判断力，表現力等] C(2)イ)
 教材「モチモチの木」(東京書籍 新しい国語三下)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①登場人物の様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。 (C(1)オ)	①粘り強く，登場人物の気持ちや性格について想像し，今までの学習を生かして文章にまとめ，自分の考えを伝えようとしている。

5 単元観

本単元は小学校学習指導要領国語第3学年及び第4学年の内容〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の(1)「オ 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと」を重点目標に設定している。

本単元では，様々な状況における中心人物の心情について捉えるとともに，中心人物の性格を具体的に考えさせたい。そのため，複数の叙述から中心人物について考える活動に取り組みさせていく。その際，擬人法や感嘆符等の表現の工夫にも着目させ，物語の情景を味わわせていく。単元を通して，文章を読んで理解したことを基に，自分の体験と結び付けて感想や考えを持たせていきたい。

6 児童の実態 [第3学年1組32名]

児童は，第3学年7月「あらすじカードを作ろう」の単元において，登場人物の気持ちを表す叙述を見付けるという学習をしている。その際，人物の気持ちは，会話や行動等の叙述を基に考えることができるということを学んでいる。

第3学年9月の「人物につたえたいことをまとめよう」の単元では，中心となる人物を見付け，その行動や様子，気持ちを表す表現等を基に，気持ちの変化を考えるという学習をしている。中心人物の行

動や気持ちから性格を想像して一言で表したり、人物に宛てた手紙を書いたりするという言語活動を行った。

以上の学習から、児童は考えの根拠となる叙述を見付けたり、登場人物の気持ちを言葉に表したりして、叙述を基に考える力が少しずつ身に付いてきている。一方、個人差が大きく、自分の考えを文章にすることが難しい児童も少なくない。特に、考えの理由を書くことが難しいという児童が多い。加えて、自分の考えに自信が持てず、少人数では自分の考えを話すことができるが、全体の前で話すことには抵抗感を持っている児童もいる。様々な考えに触れさせながら、自分の考えの理由をまとめていくことができるよう指導していく必要がある。

7 指導観

本単元では、中心人物の性格を叙述を基に考えさせ、「人物紹介カード」にまとめるという言語活動を行う。既習の「サーカスのライオン」における性格を表す言葉についての学習と関連させ、自分との共通点や相違点を考えながら、中心人物の性格について複数の叙述を結び付けて考え、「人物紹介カード」にまとめさせていく。

単元の始めには、「人物紹介カード」を作成するという言語活動を提示し、中心人物の行動や会話、情景を基に、気持ちや性格を考えながら物語を読み進めるという学習への見通しを持たせる。

各場面では、豆太の行動や様子、会話等の叙述を基に気持ちを考えさせていく。擬人法や情景を表す表現も取り上げ、物語の世界観を味わわせたい。

単元の後半では、場面と場面を結び付けたり、物語全体を通した豆太の性格について考えたりして、様々な解釈を導き出したい。児童が豆太の気持ちや性格について捉えたことを積み重ね、単元の終わりに、「人物紹介カード」として豆太を他の人に紹介したくなるように学習を展開していく。

また、児童の考えを引き出し、共有させるために、児童が安心して考えを話すことができる環境づくりとして、これまでに他教科や特別活動等で学習したMLAの実践を取り入れていく。話しやすい雰囲気の中で、自分の考えを持つことができる児童と考えを持つことが難しい児童同士が交流することで、新しい考えを知ったり、自分の考えを広げたりすることができるようにしていきたい。

8 研究主題との関連

本研究は、叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成を目指している。そのために、単元に「見付ける」「つなぐ」「深める」という3つの段階を設けて学習を展開していく。本単元では、特に「深める」の段階に重点を置き、中心人物の性格について、根拠となる叙述（【考えのもと】）を明らかにしながら考えさせていく。その際、複数の叙述を取り上げ、自分の考えと比較し検討させることで、読みの深まりを目指していく。

MLAについては、これまでの取組を想起させ、児童が考えを話しやすい雰囲気となるよう声掛けを行っていく。

9 単元指導と評価の計画（12時間扱い 本時9／12）

（単元構想図を参照）

10 本時の計画

(1) 目標

「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、本単元で重点を置いた「深める」段階に位置付けている。中心人物である豆太はどんな性格の子供か考え、まとめる活動を行う。

一場面から三場面までの豆太は、主に臆病な性格であることが描かれているが、四場面では、じさま

のために夜道を走り、勇気のある子供にしか見ることでできないモチモチの木の灯りを見ることができた。しかし、最後の場面では、また以前と同じ行動をする豆太の様子が描かれている。複数の叙述を結び付けて豆太の性格を想像させたい。

本時は、始めに個人で豆太の性格を考えさせる。その際、根拠となった叙述（【考えのもと】）と理由も考えさせる。考えることが難しい児童には、掲示物を参考に、これまで捉えてきた豆太の気持ちや性格を基に考えることができるよう声掛けを行う。

次に、グループで考えを共有させる。話し合う際は、出された考えを全て認めながら、グループで豆太の性格について図にまとめさせていく。多様な考えを図にまとめることで、視覚的にも豆太の多面的な性格を捉えることができる。と考える。

その後、各グループの考えを全体で共有する。発表する時は【考えのもと】を明らかにさせ、叙述に注目させていきたい。

最後に、改めて文章で自分の考えをまとめさせることで、豆太の性格に対する考えの深まりを目指していく。

グループの話合い活動の際は、MLAで培ってきた協同学習の手法を取り入れる。アセス（学校適応感尺度）に基づいたグループ構成とし、「司会、書記、発表、お助け」の役割分担を行い、全員が話合いに参加できるようにする。加えて、相手の目を見て話を聞くことや、相手の考えを否定しないことを約束とし、児童が安心して自分の考えを話すことができるような雰囲気を作る。

(3) 指導過程（別紙）

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準(B)	十分満足できる(A)	努力を要する児童への支援(C)
思考・判断・表現	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	中心人物について、複数の叙述を基に、理由を明確にしながらか多面的に考えている。	前時までに捉えた、中心人物の気持ちを表した掲示物を手掛かりに考えさせる。性格を表す言葉をまとめたものを提示し、考えさせる。

(5) 準備物 教師：ホワイトボード、ワークシート、電子黒板

児童：教科書、ノート、筆記用具

(6) 板書計画

おひょう

やさしい

おひょう

ゆきがある

やさしい

活発 ねばり強い

おひょう

やさしい ゆき

「グループの考え」

・理由

・【考えのもと】

○●○な子ども

「自分の考え」

豆太はどんなせいかくの子どもか考えよう

モチモチの木

齋藤隆介 文

- A (国語)・K3 -

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問及び指示 ・予想される児童の反応	MLAとの関連	・指導上の留意点 ※評価（評価方法）
導入 5分	<p>1 物語の中で一番印象に残った場面はどこか伝え合う。</p> <p>2 場面の挿絵を見て、これまでの豆太の行動や気持ちを振り返る。</p> <p>3 本時の課題を知る。 豆太はどのような性格の子供か考えよう。</p>		<p>・印象に残った場面についてペアで伝え合う。</p> <p>・主な場面の豆太の挿絵を電子黒板に提示し、豆太が取った行動やどんな気持ちだったかという前時までの学習を想起させる。</p>
展開 ① 10分	<p>4 豆太の性格，根拠となる言葉【考えのもと】，理由を書く。 ○物語全体を通した豆太の性格を考えましょう。 ○教科書から【考えのもと】を見付け，理由も書きましょう。</p> <p>(1) 豆太の性格を考えてノートに書く。 ・臆病な子供 ・勇気のある子供 ・やさしい子供 ・臆病だけど，勇気のある子供</p> <p>(2) 根拠となる叙述【考えのもと】と理由をノートに書く。 ・【豆太ほどおくびょうなやつはいない】 理由 始めに臆病と書かれているから。 ・【だいすきなじさまのしんじまうほうが，もっとこわかったから】 理由 じさまのために走ったから。 ・【おくびょう】【モチモチの木に灯がついてる】 理由 豆太は臆病ではあるけれど，じさまのために走り，モチモチの木の灯りを見ることができたから。</p>		<p>・考えることが難しい児童には，前時までに捉えた豆太の心情や行動，性格を表す表等の掲示物を参考に考えるよう声掛けを行う。</p> <p>・【考えのもと】は青ペンで書き，叙述を基に考えることを意識させる。</p> <p>・机間指導を行い「どの言葉から考えたのか」ということを声掛けする。</p>
展開 ② 12分	<p>5 グループになり，それぞれの考えを伝え合う。</p> <p>(1) グループで役割分担を確認する。</p> <p>(2) 考えを伝え合う。 ・私は，臆病な子供だと思いました。 ・臆病だけではなく，勇気のある子供だと思いました。</p> <p>(3) 豆太の性格について話し合い，ワークシートの図に考えをまとめる。 ・臆病という考えが一番多かったね。 ・豆太は臆病だけではなく，優しい性格もあると思う。半分臆病で，半分優しいという性格にしたらどうかな。 ・最後にじさまを起こしたから，臆病の方が大きいと思う。</p>	<p>協同学習 「役割を果たしながら，全員が参加できるように声を掛け合おう。」 「全員が発表できるようにしよう。」 協同学習で話し合った内容と，全体での考えの共有を，改めて考えをまとめる際の手掛かりとするよう発問する。</p>	<p>・協同学習はMLAの取組におけるアセス（学校適応感尺度）の実態分析に基づいたグループ編成とする。</p> <p>・役割は輪番とする。</p> <p>・ホワイトボードの豆太のイラストに，話し合った豆太の性格と，その理由を書き込ませる。</p>

<p>展開③ 15分</p>	<p>6 全体でグループの考えを共有する。 ○考えが似ているグループはありますか。 ・1班と2班が、臆病の部分が多いというところが似ているね。 ○考えが違うグループはありますか。 ・性格を表す言葉は同じだけれど、理由が違うよ。</p> <p>7 改めてノートに自分の考えをまとめる。 ○自分の考えをもう一度振り返りましょう。考えが変わった、変わらなかった、どちらの場合もなぜそう考えたのか、付け足しましょう。 ・変わらない：色々意見を聞いたけど、やっぱり豆太は臆病だと思った。 ・少し変わった：勇気があるという性格を付け足した。 ・変わった：豆太は優しい子供だと考えが変わった。</p>		<p>・考えの根拠となった叙述と理由を明らかにしながら発表させる。 ・始めに、性格を表す言葉を基にホワイトボードを類型化し、視覚的に捉えさせる。次に、理由に着目させ、様々な考えがあることを理解させる。</p> <p>※[思考・判断・表現] 文章を読んで理解したことを基に、中心人物について考え、まとめているかの確認(ノート)</p>
<p>終末 3分</p>	<p>8 振り返りを行う。 ○めあてを達成することができたか。 ○グループでの話し合いは、自分の考えを持つことに役に立ったか。</p>	<p>協同学習についての振り返り</p>	<p>・記号(◎, ○, △)と記述でノートに振り返りを書かせる。</p>

研究 主題	叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成 ～良好な人間関係づくりを土台とした「読むこと」の単元構想を通して～
----------	---

第3学年 国語科学習指導案

指導月日 令和3年2月20日
 所属校名 石巻市立中里小学校
 氏名 門脇 和歌子

1 単元名「物語のしかけをさがそう」

2 単元の目標

- (1) 登場人物の様子や行動，気持ちを表す語句の量を増し，語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などの違いがあることに気付くことができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕C(1)カ
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にしてい，思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力，人間性等」

3 単元で取り上げる言語活動

物語の見所を考え，カードにまとめて読み合う活動。（関連：〔思考力，判断力，表現力等〕C(2)イ）
 教材「ゆうすげ村の小さな旅館ーウサギのダイコン」（東京書籍 新しい国語三下）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①登場人物の様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などの違いがあることに気付いている。 (C(1)カ)	①粘り強く，登場人物の行動や気持ちなどについて考え，学習課題に沿って，自分の考えをまとめようとしている。

5 単元観

本単元は小学校学習指導要領国語第3学年及び第4学年の内容〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の(1)「カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などの違いがあることに気付くこと」を重点目標に設定している。

本単元では，文章中の叙述や表現に着目させ，複数の叙述から様々な考えや感想を引き出したい。そのため，登場人物の行動や会話，道具などについて，物語の展開とともに捉え，世界観を味わわせていく。さらに，続きの物語である「クマの風船」を読み，比較することで，一人一人の感じ方の違いを共有させていきたい。

6 児童の実態〔第3学年1組32名〕

児童は，第3学年9月の「人物につたえたいことをまとめよう」の単元において，中心となる人物を見付け，その行動や様子，気持ちを表す表現等を基に，気持ちの変化を考えるという学習をしている。

第3学年11月「想ぞうしたことをつたえ合おう」の単元では，中心人物の性格を考えるという学習をしている。複数の叙述を結び付けて中心人物の性格について想像し，自分の性格との共通点や相違点を考えている。

以上の学習から，児童は考えの根拠となる叙述を見付け，登場人物の気持ちや性格を考える力が身に

付いてきている。また、自分の考えを友達に伝えることに対する抵抗感は少なくなりつつある。

一方、文章の内容の理解には個人差があり、自分の考えを文章にまとめることが難しい児童も少なくない。加えて、自分の考えと他者の考えを比較するという事にまだ慣れていない児童や、考えの共通点や相違点に気付くことが難しい児童もいる。比較する観点を明確にして考えさせていく必要がある。

7 指導観

本単元では、「ゆうすげ村の小さな旅館」と「クマの風船」の教材を読み、物語の見所を考え、カードにまとめる活動をさせる。見所とは、面白いと思った所やなるほどと思った所など、自分の心が動いた所であるということに統一し、あらかじめ児童に伝える。カードを友達と読み合うことで、物語の見所として感じる部分は一人一人違うということに気付かせ、単元の目標に迫りたい。加えて、カードを図書室に掲示して他の学年に紹介するという見通しを持たせ、進んで物語の見所を考えられるように学習を進めていく。

単元の前半では、各場面の美月の行動や様子、つぼみの気持ちを叙述を基に考えさせていく。場面ごとの出来事を捉えさせた後、場面と場面を結び付け、美月の正体がうさぎだと分かる言葉や表現をまとめさせる。前時までに捉えた美月の様子やつぼみの気持ちなどから考えさせていきたい。

単元の後半では「クマの風船」の内容や仕掛けを捉えた後、二つの物語の共通点や相違点を明らかにし、つながりを考えさせる。そして、二つの物語から印象に残った物語を選ばせ、その見所をカードにまとめさせる。その際、「どちらでもよい・どちらもよい・分からない」という児童については、教師が二つの物語のうちどちらかを指定することとする。文章の表現や物語の展開など、様々な観点から見所を考えさせたい。さらに、同じ物語を選んだ児童同士、違う物語を選んだ児童同士と相手を変えてカードを読み合い、一人一人見所とを感じる所が違うということを捉えさせる。また、友達のカードを読んで感じたことや気付いたことをまとめさせることで、互いの考えのよさに気付かせたい。

児童の考えを引き出し、共有させるために、児童が安心して考えを話すことができる環境づくりとして、これまでに他教科や特別活動等で学習したMLAの実践を取り入れていく。話しやすい雰囲気の中で、自分の考えを持つことができる児童と、考えを持つことが難しい児童が交流することで、新しい考えを知ったり、自分の考えを広げたりすることができるようにしていきたい。

8 研究主題との関連

本研究は、叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成を目指している。そのために、単元に「見付ける」「つなぐ」「深める」の3つの段階を設けて学習を展開していく。本単元では、特に「深める」の段階に重点を置く。二つの物語を読んで捉えたことを基に、共通点や相違点を考えさせていく。感想や考えは一人一人違うということに気付かせていきたい。

MLAについては、これまでの取組を想起させ、児童が考えを話しやすい雰囲気となるよう声掛けを行っていく。

9 単元指導と評価の計画（12時間扱い 本時11/12）

（単元構想図を参照）

10 本時の計画

(1) 目標

「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いがあることに気付くことができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、本単元で重点を置いた「深める」に位置付けている。「ゆうすげ村の小さな旅館」と「クマの風船」の二つの物語を比べ、共通点や相違点を考えさせる活動を行う。

児童は、前時までに「ゆうすげ村の小さな旅館」と「クマの風船」について、物語の仕掛けを考える活動を行っている。「クマの風船」は「ゆうすげ村の小さな旅館」から続く物語であり、文章の仕掛けや魔法の道具が登場することなど、内容の構成や表現に類似している点が多い。そこで、始めに物語の関連性について問い、内容を確認しながら二つの物語の共通点を考え、つなげていく。次に、二つの物語の相違点を問い、前時までに児童が捉えた物語の内容や仕掛けなどから、相違点についての自分の考えを持たせていく。その後、自分と考えが似ていた友達は誰かという視点を持たせながら交流し、一人一人の考え方や感じ方の違いに気付かせたい。加えて、全体で考えを共有した後、改めて感じたことや気付いたことをノートにまとめる時間を設け、本時の目標に迫っていく。

ペアの話合い活動の際は、P B I Sを取り入れる。発表の際は、「最後まではっきりと話す」「発表をした人に拍手をする」等、これまで学習してきたことを確認しながら活動を行っていく。

(3) 指導過程（別紙）

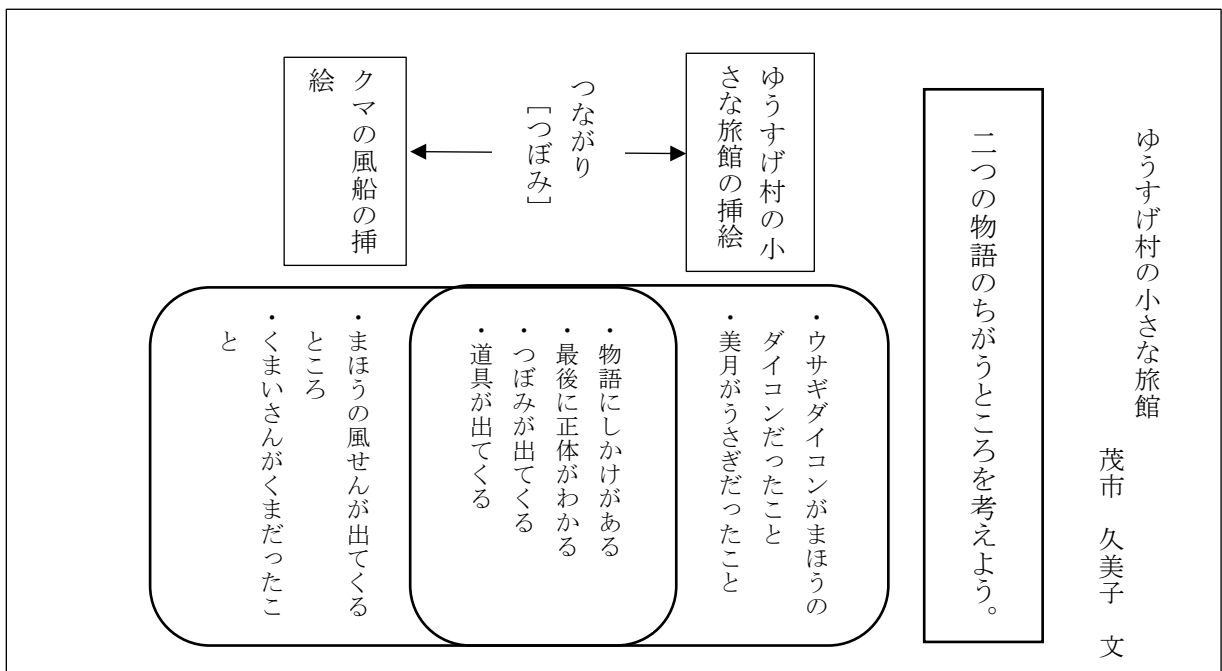
(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準(B)	十分満足できる(A)	努力を要する児童への支援(C)
思考・判断・表現	「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いがあることに気付いている。	物語の共通点や相違点について、叙述や構成など、自分と友達の考えとの違いに気付くとともによさにも気付いている。	物語の共通点や相違点について、時、場所、道具、仕掛けなどの視点を基に、自分と友達の考えを比べるよう助言する。

(5) 準備物 教師：あらすじをまとめた紙、挿絵

児童：教科書、ノート、筆記用具

(6) 板書計画



(3) 指導過程

段階	学習活動	MLAとの関連	・指導上の留意点 ※評価（評価方法）
導入 10分	<p>○主な発問及び指示 ・予想される児童の反応</p> <p>1 挿絵を基に、二つの物語を振り返る。</p> <p>2 二つの物語の関連を考える。 ○「ゆうすげ村の小さな旅館」と「クマの風船」の物語を比べて、似ているところを考えましょう。 ・物語に仕掛けがある。 ・ゆうすげ旅館が舞台上、つぼみさんが出てくる。 ・魔法の道具が出てくる。</p> <p>3 学習の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">二つの物語の違うところを考えよう。</div>		<p>・指導上の留意点 ※評価（評価方法）</p> <p>・電子黒板で挿絵を写し、二つの物語を想起しやすくする。</p> <p>・どんな言葉や場面を根拠に二つの物語をつなげたのか、ということを見事に児童に投げ掛けることで、叙述を基に考えることにつなげていく。</p>
展開 ① 15分	<p>4 二つの物語を比べて、違うところを考える。</p> <p>(1) 違うところを考えて書く。 ○二つの物語を比べて、違うところを考えましょう。 ・つぼみさんと会う人物が、美月と熊井というところが違う。 ・季節が違う。「ゆうすげ村」の後に「クマの風船」が続くと思う。 ・ウサギダイコンと風船という魔法の道具が違う。</p> <p>(2) 考えを交流する。 ○自分と考えが似ている友達を探しながら、お互いのノートを見合ひましょう。 ・私も魔法の道具を使うところは同じだけど、使う物がウサギダイコンと風船とで違うと思った。 ・季節が違うということについては気付かなかったな。</p>		<p>・児童の考えの根拠となった叙述を取り上げる。</p> <p>・考え付かない場合には、隣の人と話し合ったり、掲示物を参考に、これまでの学習の内容を想起して考えたりするよう助言する。</p> <p>・全員でノートを見合ひ、自分と同じ考え、似ている考えの友達のノートに付箋を貼らせる。</p>
展開 ② 15分	<p>5 全員で考えを共有する。 ○自分と同じ考え、違う考えに気を付けながら、お互いの意見を聞きましょう。 ・美月の正体は山に行き分かったけど、熊井の正体は魔法の風船で分かったということが違うんだ。 ・つぼみさんという中心人物は同じだけど、他の登場人物や道具は違うんだな。</p> <p>6 友達の考えを聞いて、考えたことや気付いたことをノートにまとめる。 ○友達の考えを聞いて、なるほどと思ったことを書きましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">PBIS</div> <p>「最後まではっきりと話す」「発表した人に拍手をする」というポイントを確認し、発表しやすい雰囲気をつくることにつなげていく。</p>	<p>・児童の考えの根拠となった叙述を取り上げる。</p> <p>・児童の考えをつなげるよう、意図的に指名する。</p> <p>※ [思考・判断・表現] 文章を読んで考えたことを共有し、友達と自分の考えとの違いに気付いているかの確認（ノート）</p>
終末 5分	<p>7 振り返りを行う。 ○めあてを達成することができたか。 ○PBISの「がんばりポイント」は、自分の考えを伝えるのに役に立っていたか。</p>		<p>・記号（◎、○、△）と記述でノートに振り返りを書かせる。</p>